G3 のツイッター その61

烈剛河内 竹井 保満

ワールドベンチプレス大会が、日本の成田市で18日から举行されることは素晴らしい事です。さらに、来年には国を挙げての東京オリンピックが開催されます。スポーツ選手は定められたルールの中で競い合うものですが、金メダルが国威の誇示に使われたり、商業主義に踊らされ、ドーピングに手を出す選手が後を絶たないのが事実です。

現在のドーピング機構の検査では、興奮剤や麻薬性鎮痛剤、蛋白同化剤すなわち男性ホルモンのテストステロン、遮断剤の精神安定剤や、急激な減量に用いる利尿剤だそうで、試合前に溜めておいた健康な自分の血液を輸血する方法などは検査が難しいとの事です。

オリンピックの選手クラスになるとそのスポーツに必要な遺伝子の組み換えによって、金メダルを狙う選手がいるのではないかと、スポーツジャーナリストが話していました。ここで話す遺伝子ドーピングとは、筋肉の増強、血液の増加、持久力の強化を言います。筋肉増強では肉のたくさん取れる家畜も作られていますし、疲れを知らず車を回し続けるマウスもいます。ですから、人倫に背き遺伝子の組み換えをした選手が出てきても不思議は有りません。無論ドーピング検査では判らないでしょう。当然の事乍ら、自然界でも遺伝子の組み換えが行われてきて現在の動植物が出来たのですから。

それから、検査にかからないものがもう一つ、身体に微弱な電気を流してトレーニングを行い30%も成績を上げているスポーツ選手がいることです。既に市販されていて、マイクロカレントと言う商品名です。この装置は、アメリカのペンシルベニア大学のリースィーニ教授が、2007年に筋ジストロフィーの研究の際、老化が進んでも筋力が衰えず十分な力を持ち続けるマウスを作り出したことに始まったそうです。他の研究でも動物のけがの治りが4倍も速くなったとの報告が有りますし、100km走の桐生選手も、痛みと疲労の軽減に使用しています。

もう一つ、同じく微弱電流を流すもので、ホールドスポーツと言う商品名で、頭にセットして使用する物です。ベンチプレスでエメリー・フーさん56kg級の女性ですが、ベンチプレス125kgを挙げ世界一に、彼女に言わせると、スクワットも135kgがリミットでしたが、このホールドスポーツを使用してから165kgに伸びたとの事です。この道具は頭の中を制御して、トレーニングを楽にするようです。

さらに、もう一つ、鍼灸です。痛みが取れる、可動範囲が広がる、内臓や頭の病気まで治療するので、いまブームになりつつあります。いやはや、人間の細部の研究が進めばもっともっと面白いことがでてくるでしょう。

私も、大きな艾を頭にのせて火をつけて、ボケ帽子ボケ帽子と祈りましょう。